

貼付困難な部位に対するの陰圧閉鎖療法の工夫

竹之内美樹

茨城県厚生農業協同組合連合会 総合病院 土浦協同病院 看護部, 皮膚・排泄ケア特定認定看護師 / 看護副部長

Point

- ▶ 貼付困難な部位に陰圧閉鎖療法を実施する場合も、漏れなく定期交換を行う
- ▶ 簡便な方法を用いて短時間でケアを実施する

はじめに

平面でない部位や、ストーマが近い部位などに局所陰圧閉鎖療法を行う場合は、リークが起こりやすくなったり、貼付に時間がかかってしまっ

りすることがあります。本章では、そのような貼付困難な部位に対するの注意点と装着のポイントを説明します。

創傷とストーマが近接している場合

創傷とストーマが近接している場合は、ストーマからの排泄物が創部に入り込まないようにすることが大切です。さらにストーマ装具を装着することから、陰圧閉鎖用のドレープと、ストーマ装具が重なりあって貼付しなければならないことがあります。

ドレープです。創部とストーマ周囲皮膚を洗浄し、フォームを装着します。創部とストーマが近い場合、ストーマが下になるように半臥位にして洗浄することで、排泄物が創部に入り汚染することを防ぎます。そして、ストーマ近接部はドレープをストーマ粘膜にかからないよう装着します(図1)。陰圧をかけて持続的に吸引ができることを確認してから(図1A)、ストーマケアを実施します(図1B)。創傷とストーマが近接している

貼付のコツ

まず優先的に貼付するのは、陰圧閉鎖用のド



図1 ストーマ近接部での陰圧閉鎖療法

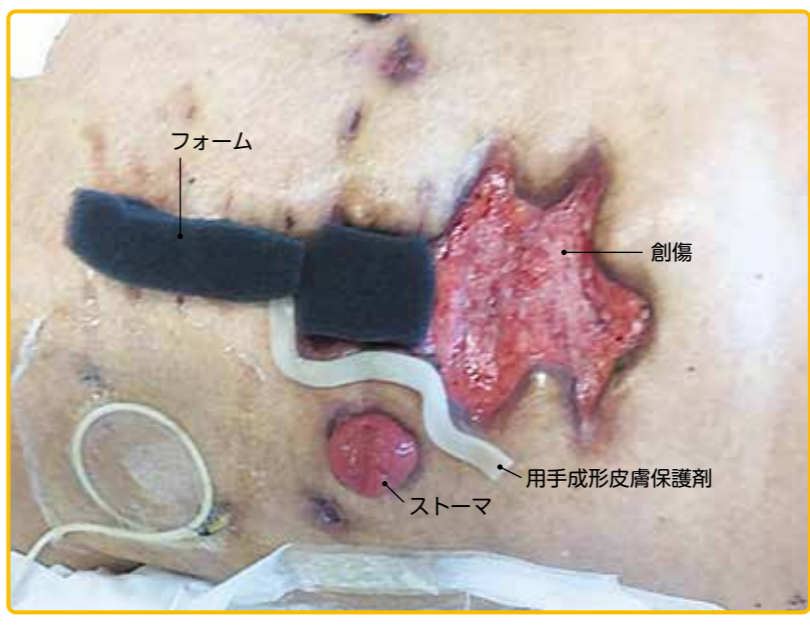


図2 ストーマ近接部での陰圧閉鎖療法の工夫: 用手成形皮膚保護剤の使用
ストーマの近くだけフォームの近接部に用手成形皮膚保護剤を当ててから、ドレープを貼付する

場合は、ドレープの上にストーマ装具を装着するため、ストーマ装具のみの使用ではなく、ストーマ近接部全周に用手成形皮膚保護剤を使用することもおすすめします。それでもうまく装着ができない場合は、ストーマの近くだけフォームの近接部に用手成形皮膚保護剤を当ててからドレープを貼付する方法もあります(図2)。

本症例は、創部とストーマの間の皮膚にある縫

合した際の針穴より滲出液が漏出するようになり、陰圧閉鎖がリークするようになったため、その部分に銀含有ハイドロファイバー®を当て、ハイドロコロイドドレッシング材を使用してからドレープを貼付するにしました(図3)。陰圧閉鎖療法とストーマ装具交換を同日に行うようにできると、ケアも簡便です。